



石川 広己 医師(千葉県医師会理事)

予防接種って何？ どうして必要なの？

予防接種は対象とする疾患に罹患する前に免疫(抵抗力)をつけるために行います。自分の健康を守るだけでなく、周りの人へ感染させないためにも予防接種は必要なのです。

予防接種って どんな種類があるの？

予防接種には定期予防接種と任意の予防接種があります。

定期の予防接種は、予防接種法で定められ、市町村が実施主体となります。

そのうち、高齢者インフルエンザについて

では、一部自己負担がありますが、子どもの予防接種については定められた期間内に実施すると無料になります。

それに対して自ら(または保護者)が希望して自費で受けるのが任意接種です。

また、インフルエンザの予防接種に関しては、65歳以上の、60歳以上65歳未満の、心臓、じん臓又は呼吸器の機能または、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する人は、定期予防接種となりますが、それ以外の人は任意の予防接種となります。

定期の予防接種でも、定められた実施期間を過ぎた場合は、任意接種として扱われることが多いので注意が必要です。

どうで受ければ いいの？

千葉県内において定期予防接種は各市町村間の乗り入れ事業として実施されていますのでお住まい以外の市町村にあるかかりつけ医でも接種することが可能です。(一部、該当しない医療機関があります) でお住まいの市町村に確認してください。

定期予防接種スケジュール

標準的な接種年齢 予防接種法で定められている年齢 やむを得ない事情を有する場合のみ

	出生時	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	備考		
ポリオ																								※6週間以上の間隔をあけて2回接種	
DPT I期																									※第1期は20～56日の間隔を置いて3回接種することが基本です。追加接種は、初回終了後6月以上の間隔をおいて1回接種
DT II期																									※原則MRワクチン。麻疹及び風しんのいずれか一方に罹患したことがある者、あるいは単抗原ワクチンを希望する場合に単抗原ワクチンを接種することができる
麻疹・風しん																									※第1期初回接種は1週間から4週間までの間隔をおいて、2回接種することが基本です。追加接種は初回接種終了後おおむね1年を経過した時期に1回接種
日本脳炎																									※生後3月以降の接種が望ましい
BCG																									※生後3月以降の接種が望ましい
インフルエンザ																									(1) 65歳以上の者 (2) 60歳以上65歳未満であって、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する者

定 期 予 防 接 種



BCG	結核を予防するためのものです。結核は過去の病気ではありません。生後3ヶ月から6ヶ月に達するまでの期間に受けることが望ましいとされています。
DPT 三種混合	D(ジフテリア) 重症になると呼吸困難や神経麻痺をおこすこともあります。
	P(百日ぜき) 長く続く咳が特徴で肺炎や脳症などの重い合併症をおこすこともあります。最近では成人で発症することがみられています。
	T(破傷風) 傷口から入った破傷風菌により筋肉の硬直や呼吸器の麻痺の危険もあります。特に千葉の土壌の中には破傷風の菌が隠れていることは有名です。
DT 二種混合	D(ジフテリア) 重症になると呼吸困難や神経麻痺をおこすこともあります。
	T(破傷風) 傷口から入った破傷風菌により筋肉の硬直や呼吸器の麻痺の危険もあります。特に千葉の土壌の中には破傷風の菌が隠れていることは有名です。
ポリオ	ウイルスが脊髄神経の灰白質という部分をおかすと手足に麻痺がおきます。後遺症として一生、麻痺が残ることもあります。赤ちゃんに飲ませて接種します。
MR	麻疹(はしか)と風しんの予防接種です。今後は二回接種することがすすめられています。
日本脳炎	日本脳炎を発症するとこのウイルスに効く薬はありません。症状は、高熱、嘔吐などで後遺症として脳障害などが残る場合もあり、死亡率も高い病気です。現在、新しいワクチンを開発中ですが、多発する地域に行ったり、住んだりする場合は古いワクチン液でも受けた方が良いと言われています。
高齢者 インフルエンザ	インフルエンザウイルスの感染でおこり、かぜに似た症状が現れますが、40度以上の高熱や全身の倦怠感など強い全身症状が現れます。乳幼児や高齢者がかかると重症化しやすく、脳症や肺炎などの合併症を起こしたり、命にかかわるケースもあります。毎年、ウイルスの型が異なるので毎年受けなければなりません。